

本種は、背中側の鱗が眼の後端付近から始まることでヨシノボリ属の他の種と区別できます。また、頬にはブルーをおびた複雑な斑紋があります。このように斑紋をみみず状斑紋とか、蠕虫（ぜんちゅう）状斑紋と呼びます。体の側面にはやや太めで黒色の縦線が走り、小さなブルーの斑紋があります。小さいながら、なかなかきれいな魚です。

ゴクラクハゼは河川で産卵します。卵は石の裏側に産み付けられ、雄がこれを保護することが知られています。孵化した仔魚はただちに流下します。その後、沿岸域で成長し、春に遡上を開始します。すなわち、浦戸湾のような汽水域を通過せねばなりません。



1ページと同一個体。

一生の間で海と川を往復する回遊を通し回遊と言います。

一生の間で海と川を往復する回遊を通し回遊と言います。

ゴクラクハゼのような通し回遊を両側（りょうそく）型回遊と呼びます。アユも両側型回遊魚です。河川で成長し、海で産卵するウナギは降河型回遊魚、サケのように海で成長し、河川の上流で産卵する魚は遡河（そか）型回遊魚です。

高知県内ではごく普通に見られるゴクラクハゼですが、徳島県では絶滅に留意すべき種、愛媛県では情報不足とされています。埼玉県と広島県では絶滅危惧種です。通し回遊魚にとって、汽水環境が重要なのは言うまでもありません。

2005年3月16日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします。